『大』キャッチプレス

Matsubara Daisuke Seto City Report

松原大介

瀬戸市議会議員

2020年10月発行　Vol.05

５箇所の小学校跡地の将来活用の決め方について

９月定例会の一般質問において、「５箇所の小学校跡地の将来活用の決め方について」を質問し、大きく２つの提案をいたしました。どちらについても、明確な採用の答弁はいただけませんでしたが、松原大介の活動をご理解いただくうえで重要な考え方なので、ぜひご一読ください。

① 小学校跡地活用は、瀬戸市公共施設等総合管理計画において、「地域コミュニティの拠点へと進化」とあります。

② このため各地域との調整や合意形成は必須です。

③ 全市的な観点や、特に５連区のなかで、どこをどのように位置付け、どのような機能が必要かは、大切な観点です。

④ １つの学区となった今、少なくとも５連区全体で合意形成を図りながら進めて行く必要性を感じます。

⑤ ５つの連区がそれぞれの事情を定期的に共有し、相互理解をしながら合意形成を作っていくプロセスは、これから１つの学区としてまとまっていくためにも有効なプロセスと考えます。

① ５つの地区協議会すべてが、地域の若い世代も含めた、情報提供、意見聴取、意見交換、意見集約、議論と調整、合意形成の場となっているかと言えば、必ずしもそうとは言えないのが現状です。

② 現実的に、行政が市民と共に、小学校跡地活用の課題解決をするためには、行政側は報告だけにとどまらず、地域住民とともに話し合い考えることで、みなさんの合意形成を図る一助になっていただきたいと考えます。大切なのは「みんなで話し合うこと」です。

みんなのことをみんなで決めていく仕組み作りが必要ではないでしょうか

松原大介の一般質問

瀬戸市国際未来教育特区計画で掲げた目標は達成されるのか

【質問】瀬戸SOLAN小学校の計画は「地域住民の期待やコンセンサス（合意形成）に基づいた用途としており道泉地区協議会から提案をよしとする評価の声が多かった」としているが、どのように確認したのか？

（行政答弁）進捗報告を行っていた中で、反対する声はなかった。

（松原）進捗報告は受けていたが、意見聴取はされていない。この学校（事業者）になったという報告は、特区を申請した後にしているため、明らかに矛盾している。

【質問】令和７年には中学校、令和８年にはプリスクールが開園される予定となっているが、現在行っている本山中学校の改築工事だけでは、教室が足りないのでは？

（行政答弁）中学校・プリスクールは別途校舎を整備する計画であると認識している。収支計画にも入っている。

（松原）議員も含め、多くの方が現在工事中の旧本山中校舎内で完結するものだと思っていた。では、どこでどのように作るのか？収支計画にも入っているならば市としても把握しているはずでは。

（行政答弁）どこでやるかも、新築か改修かも市としては把握していないが、学校設置会社においては、必要な想定を行っている。

（松原）本山中校舎では小学校分しか入らず、新たな校舎が必要なことは、市民にも議会にも知らされてない。全体計画を明確に示したうえで、市民と合意形成を図り、議会には議決を求めるべきだったのではないか。

【質問】本計画は、特区で掲げた4つの目標を達成することで、本市の3つの課題（地域産業の活性化・次代を担う人材育成・公有資産マネジメントの推進）の解決に資するとありますが、本市は、どのように本計画としての進捗管理・評価検証を行うのか伺います。

（行政答弁）効果が得られるまでに複数年かかることから、第６次総合計画全体の進行管理のなかで実施していく。

Youtube動画２４分頃からご覧ください！

今回の一般質問でわかった重要なこと

瀬戸SOLAN小学校は、令和７年に中学校を開校、令和８年にプリスクールを開園させる予定ですが、現在工事中の旧本山中校舎では小学校の教室分しか確保できません。

中学校開校・プリスクール開園のためには、新たな建物が必要です。新たな施設整備を含めた収支計画は審査済にも関わらず、どこでどうやるかは知らされていません。

これらのことが、市民にも議会にも知らされぬまま進められていることは問題です。

松原大介応援クラブ
〒489-0055　愛知県瀬戸市滝之湯町24-1
TEL：0561-76-3153
Email：d.matsubara3153@gmail.com

Instagram　facebook　松原大介応援クラブ ホームページ